MONTHLY
かわせみ通信
8月号
2024年8月
Vol.180
発行所 株式会社東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE
本社／三重県四日市市午起2丁目4番18号（〒510-0023）
TEL.059-332-5122（代） https://www.tokai-techno.co.jp

式年遷宮と民俗行事に学ぶ ～持続可能な社会とは～

2033年に行われる「第63回式年遷宮」が正式にこの春に決定された。私の生まれ故郷にある伊勢神宮には、1300年前から20年ごとに社殿を造りかえ、神様を新しい社殿に移ってもらう式年遷宮という神事がある。SDGs達成に向けて持続可能な仕組み作りや循環型社会の形成が注目されているためか、20年に1度という式年遷宮の仕組みがよく引き合いに出されることがある。

遷宮では使えるまで200年はかかる1万本以上のヒノキが用いられ、毎年約2万本の苗木が植栽されている。また、解体された木材は再利用・再生利用され、例えば内宮と外宮の正殿の一番太い柱は、内宮にある宇治橋の内側と外側の鳥居として20年間利用され、その後も別の鳥居としてさらに20年間利用されている。まさに、循環型社会が形成されていると言えるが、ヒノキの育成が1300年前からあったわけではない。

木材を調達する山のことを「御杣山（みそまやま）」と呼ぶが、適材の確保が困難になるたびに場所を変えてきた。森林計画が立てられたのは大正期になってからである。とは言うものの、“本質を守る”ために時代の変化に合わせて柔軟に対応し、営々と繰り返し行うことで1300年も受け継がれてきたことは驚くべきことである。伊勢の人たちは内宮を「ないくさん」、外宮を「げくさん」と親しみを込めて呼んでいる。

もうひとつ遷宮にまつわるお祭りとして、20年サイクルで行われ、地元の住民（正確に言うと神領民）によって受け継がれた一生に数回しかない大切な民俗行事がある。各町に奉曳団・奉献団が結成され、次世代に向けて風習・踊り・唄などを伝承するとともに、世代を超え団結して受け継がれている。社殿などに使うご用材を奉納する「お木曳き」や、白い石を拾い集め・運び・社殿のまわりに敷き詰める、550年前から続く奉献行事「お白石持ち」があり、神聖な正殿の敷地内に立ち入れる唯一の機会である。これらは神領民の特権（誇り）であり義務（奉仕）でもある。明治時代に造営が国費となり奉仕が不要となったが、神領民らが請願し「お木曳き」は踏襲された歴史がある。神宮と関わりをもつことへの誇りや奉仕の文化がDNAとしてインプットされているようだ。

写真：倭町奉曳団提供

この民族行事が、遷宮と同じように受け継がれているのは、継承という明確な目標を持ち、それらが執り行われることによって得られる達成感、安堵感、喜び、誇り、感謝、地域活性という価値を神領民が一体となって、深く共有されているからであろう。祭りの存続が難しくなった地域が増える中、この“奉仕の心”がある限り、時代に合わせて形を変えながらも受け継がれていくだろう。

ココに技あり! 夏休み応援企画「エコキッズラボ」開催

子供たちの夏休みの自由研究を応援するために企画した「エコキッズラボ」を8月2日に初開催しました。小学校高学年の社員の子供を対象とし、環境汚染の歴史や環境分析の重要性について学んでもらいました。実際のラボ見学や水の汚れをテーマにした実験では、環境や化学への理解を深めてもらえたように思います。白衣を着て行った環境分析は、特に思い出に残ったのではないかと自負しています。本企画の目的は親の仕事の役割、環境保護の重要性を子供たちに伝えることでしたが、我々にとっても気づきの多い充実した時間となりました。来年以降は対象を地域に拡げ開催したいと考えています。

東海テクノからのお知らせ

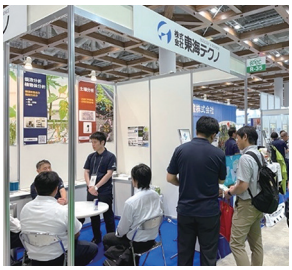
セミナー及び展示会ご来場頂きありがとうございました。

❶環境キーパーソン育成セミナー

四日市商工会議所にて7月2日に「環境キーパーソンセミナー」を開催しました。対面では6年ぶりのセミナーでしたが、53社85名の方にご参加いただきました。講演内容が分かりやすく、実務に役立った等お褒めの言葉をいただいた反面、有用なご意見もいただきました。今後も、皆様の業務に役立てるような情報提供に努めてまいります。（環境事業部）

❷施設園芸・植物工場展（GPEC）

7月24～26日の開催期間中、当社ブースには350名近い方々にご来訪いただき、貴重な情報交換を行うことが出来ました。当社が農業分野で提供する最新サービスに対し、多くの反響をいただき、特に視える化に繋がる分析技術に関心が高く、具体的なご依頼相談や共同開発のご提案も多数いただきました。今後も皆様に貢献できるサービス提供と新たな価値創造に取り組んでまいります。（企画開発事業部）



社員プチコラム

千賀　紀彦（企画開発事業部　企画開発室）

営業としてコロナ禍は大変なストレスもあり常日頃、禁煙する理由がわからないと言いながら次から次へとタバコを吸っておりました。そこへ、コロナ禍では連日TVで、「喫煙者は重症化する」と再三おどされ、都内でも東京オリンピックにあわせて喫煙所が減らされました。ノリと勢いで禁煙外来へ行ってしまい、投薬により一発禁煙することが出来てしまいました。自分でもビックリです。今では喫煙者の方と同行営業していると、移動ごとにゾンビの様に喫煙所を探しているのを見ているとと、禁煙してよかったなとつくづく思う今日この頃です。

編集後記

今夏は、当社にとってイベントが多く、充実した期間となりました。夏季休業を終え、ようやく落ち着きを取り戻しつつありますが、頂いた貴重な機会やご意見をもとに、引き続きお客様のご期待に応えるべく活動を続けてまいります。（みっちー）